

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館 ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会
連絡所 〒136-0081 東京都江東区 夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

熱帯植物を通して熱帯地域交流

夢の島熱帯植物館紹介

桜田 通 雄

夢の島公園の一角にある夢の島熱帯植物館は、昭和六三年(一九八八年)一月一九日に誕生しました。神代植物公園に次ぐ都立植物園です。第五福竜丸展示館から徒歩数分の場所にあります。夢の島に熱帯植物の展示紹介施設を、という構想は、昭和四〇年代のゴミ問題の時代に逆のぼります。江東清掃工場の熱却熱利用施設の一つでもあります。世界の熱帯、亜熱帯地域原産の植物として小笠原の植物を展示し、それらの地域の人びとと植物の関連や日本の我々の生活との関連等を紹介しています。



熱帯植物館の内部と池のオオオニバス

熱帯地域の自然・産物と私たちの生活は非常に密接です。欧米諸国が熱帯地域に航海をして、地理上の発見をしつつ、様々な植物資源を持ち帰ったことはご存知のことでしょう。そして、熱帯を原産とする多くの植物、例えばコメ、トウモロコシ、トウガラシなどのように、すっかり日本の植物のようになりきってしまっているものも数多くあります。これらの恩恵を受け、現代の私たちの生活が豊かになっています。さらには熱帯の自然が持つ多様な遺伝子が医薬の分野をはじめ、これからの人類の貴重な財産になると言われています。改めて、植物の大きな恩恵を確認できるのも植物館の機能です。

第五福竜丸展示館と同様に学校団体の児童・生徒が多数来館します。社会科、理科、生活科さらには総合的学習での利用です。

外国からの見学者も珍しくありません。先日もミャンマー、コスタリカ、ジャマイカ、スリランカなどの若き研究者や行政マンが訪れてきました。多くの熱帯地域の国では「自然の減少が国家的問題である」「マンングローブの保全・復

元は危急の課題である」との話でした。これら、自然の減少には日本での生活スタイルとの関連もあるところですから、まず、熱帯の個々の植物を知ることから始まり認識を得ていく必要があります。一七種の植物でスタートした当館ですが、現在は三〇〇〇種の植物を栽培し、大温室にはそのうち約一〇〇〇種を展示しています。

スター的な植物をいくつか紹介しますと、背の高いダイオウヤシ、ユスラヤ等の類、水面に巨大な葉を浮かべるオオオニバス、鮮やかな花の熱帯スイレン、青色の花を持つヒスイカズラ、観葉植物としてではなく、本来の姿を見せるポトス、モンステラ、ガジュマル等やマンングローブの木々たち等です。

季節変化がないと思われる熱帯植物ですが、そうではなく確実な変化があります。是非そのすばらしい時々を見ていただきたいと思います。昨年は「オルキダクタ」という大変珍しい植物の花が咲き、多くの人に楽しんでいただきました。つらい厳しいニュースが多い昨今ですが、植物たちはうまく折り合っていて、ところを得て真摯に生きています。熱帯現地の自然や植物の姿を想像しつつ、様々なアイディアや情報を持ちかえってほしいと思います。

(東京都夢の島熱帯植物館 館長)

久保山さんゆかりの三浦三崎をたずねて

一月一日に「マグロ塚を作る会」のよびかけで、三崎でピキニ事件の跡をたずね、美味しいマグロを食べるといふ会に参加しました。

一行は午前九時に渋谷駅のハチ公前に集合、一六名の参加者は初めてお会いする方もおり、車中では自己紹介などをしたり、NHKのビデオ(大石さんの『又七の海』)を見ながらむかいました。三崎は港祭りの最中で、旧魚市場では海産物のバザールがありにぎやかでした。港に面した市民



三崎漁港にて森田さんの説明を聞く

ホール(旧魚市場)の二階ベランダで三浦三崎でのピキニ事件の影響についてお話を伺いました。お話ししてくださったのは三浦のピキニ事件の記録をまとめられた森田喜一さんです。

三崎の被害額は全国一だったそうで、事件が報じられた翌日から魚価が半値になり数カ月安値が続いたそうです。さらに船が長期間の遠洋航海に出るための燃料、食料、網などの漁具、船内で使う日用品や医療品、衣料品など漁に係する業種全体が被害を受けたことがわかりました。

久保山さんは、第五福竜丸に乗る前、三崎の大洋漁業の無線士として働いていました。久保山さん



事代漁業(株)の第八事代丸

がよく出入りした船員組合や乗船前の健康診断を受けた病院には、その人柄を記憶する人がまだいるそうです。

森田さんは言いました。「久保山さんは無線士の資格を取ったときには、わざわざ無線局に挨拶に行かれた、そんな律儀な人だったんです」。

港には第八事代丸の船名の船が停泊し昔を呼び戻すかのようでした。これは福竜丸の前身だった第七事代丸と同じ事代漁業株式会社の所有だそうです。

一行は昼食の後、横須賀基地を回り午後七時に渋谷に帰着、大石さんの「これから起こることを見誤らないようにやってみましょう」の言葉で締めくくられたすてきな小旅行でした。

(第五福竜丸ボランティアの会・大幡嘉子)

来館者からの感想より

・福竜丸を見て船長になりたくなった(男11才)。
・この夏父と長崎にいきました。その時げんばくしりょうかん

行ってかくのこわさを知ったのですがここにきてもっとこわくなりました。いまアメリカは戦争をやっているけれどやめてほしいです(女10才)。

・こうした展示がなければ忘れられてしまうかもしれませんね。アメリカ人の命は大事だがアフガニスタン人は何人死んでも関係ないというアメリカ軍。いつまでも人の命の大切さを伝えていきたいです(女47才)。

・福竜丸のことは知っていました。が新木場にあるとは知りませんでした。入場無料にしたのはエラかった。絵本を購入しました、子どもに読んで聞かせます(女32才)。

・また仲間と来ます。ウランとかプルトニウムとか水爆のこともっと勉強したいです(男20才)。

・やっと来ることができました。小6の息子と一緒にです。いまの世界のうごきが気になりますね(男44才)。

・せんそうはしてはいけないとおもいます。あなたはすぐくがんばりました。とてもえらいとおもいます。とてもりっぱです。かんしんします(女9才)。

こんちの

平和博物館の課題

藤田秀雄

いま平和博物館が、世界で注目されています。平和博物館とは、広島、長崎の原爆資料館や、第五福竜丸展示館など、平和を目的とした資料館、展示館、美術館を指します。

これまでに三回、世界の平和博物館の国際会議が、国連の協力でおこなわれました。国連は『世界の平和博物館』Peace museums World wideという本をつくり、わたしたちの福竜丸展示館も、写真入りで紹介されています。

その数は、日本が群を抜いて多いので、海外でしばしば話題になります。八月、ジャマイカで行われた国際成人教育協議会の大会でも、一〇月にカナダの平和団体をつくっても訪問した時も、日本の平和博物館が話に出ました(日本についての他の話題は、憲法第九条と教科書問題と首相の靖国神社参拝です)。

ヨーロッパ各地に多いレジスタンス博物館がなぜ含まれないの

か、日本ではなぜ「博物館」でないのかとか、日本とくに多いのはなぜかとか、平和教育にどれほど貢献しているかについては他の機会にゆずり、ここでは日本の平和博物館の課題について、七点を指摘しようと思います。

第一は、日本に、戦争博物館も多いということ。靖国神社遊就館には訪問者も多く、いま拡大建設中です。横須賀の戦艦三笠を利用した日清、日露戦争の資料館は、中国、朝鮮半島、ロシアの人たちとの友好に反するものです。

第二は、加害の展示に対する攻撃です。これについては、一月の日本平和学会で、立命館大の山辺昌彦氏がくわしく報告してくれました。長崎では中国との国際間

題になっています。九六年六月には、橋本首相が全国の博物館の展示写真の真偽を調査するよう指示し、一〇月には自民党が調査報告書を出しています。その後これを材料に脅迫や議会での質問、新聞・雑誌での攻撃が広がって来ています。「地球市民かながわプラザ」では内容が大きく変えられました。

第三は財政問題です。自治体予算による館では、予算が削減され(本館でも若干削減)、私立で篤志家の寄付にたよっているところでは、不況の影響を受け深刻です。公費補助とこの拡大が求められます。

第四は、平和な世界創造の主体形成——平和のための行動者育成——という平和学習の問題に沿っているかどうかです。日本の平和博物館は戦争の悲惨さを事実によって伝えてきました。これによって戦争や核兵器拒否の心構えを広く育ててきたことは重要ですが、しかし、平和のためのさまざまな意志表示を行動する人を生み出しているとはいえませんが展示館内容の検討が求められます。

第五は、日常的暴力の軽視です。平和とは一切の暴力の廃絶をめざすものです。欧米では、マス・メディアやテレビ・ゲームの暴力が平和の重要課題になっていますが、日本は暴力ゲームのソフトの輸出国でありながら、平和問題(教育)から除外されています。

第六は、私たちが日本で知る情報は、あまりにもアメリカよりで、第三世界(とくにイスラム世界)の客観的な情報は極めて少ない。情報のかたよりを正す資料館がぜひともほしいと思います。

第七は資料館や展示館が、それだけの機能にとどまらず、地域や地元の平和のための活動のセンターになることも期待されます。(第五福竜丸平和協会副会長)

第五福竜丸に心を寄せて

アレン・カーナー

アレン・カーナーさんは、アメリカ・カリフォルニア州出身で二十九歳。リーズ大学大学院、マッコウリー大学博士過程で文化社会学精神論学を専攻し、現在はカリフォルニア大学講師です。

一〇月に二度展示館を訪れ、いづれ第五福竜丸とゴジラについての創造的企画をつくりたいと語り、『福竜丸だより』に一文を寄せました。

翻訳は夫人の菅谷秋子さん。

第五福竜丸とはなんなのだろうか。それは歴史的記念碑なのか。

人間の手にした原子のエネルギー、それは本来ならば私たちの未来への進歩を意味するはずなのに、自分たちを絶望させる殺戮の道具となってしまう。いま残された第五福竜丸はその象徴なのだろうか。ポール・バワーズ氏は「原水爆は人間にとり、いまでは或ることが人間にとってのカテゴリーに入ってしまったかのように」と指摘した。

福竜丸事件とは、原水爆に対する社会的な側面、精神的な側面で私たち人間に自覚をもたらせてくれたのだろうか。原水爆の悲劇的な結末として、人類史に決定的な裏付けを与えているのだろうか。



アレン・カーナーさんと秋子さん

第五福竜丸は人間の有形の財産だ。展示館で福竜丸を見上げ、そのまわりを歩き回るだけで、私自身が歴史を自分のなかに取り込み、体験しているようになる。歴史は理論上のむすびつきというよりも体験の証拠なのだ。

それは人間の本質、生きる大切さ、人間が引き起こした破壊の象徴としてここにある。私が原水爆について一番衝撃を受けたのは、多くの認識を与えてくれたのは大江健三氏の『ヒロシマノート』だった。そこにはアメリカの占領下での厳しい検閲で原爆被害や核兵器反対への言語や行動がいっさい禁止され、書物も検閲で認められたものだけが公にできたことを教えている。

一九五二年にアメリカの占領が終止符を打つ、検閲も廃止された。しかしまだ多くの国民の中で、原水爆の議論が沸きたつことはなかったようだ。二年後の五四年三月一日の第五福竜丸事件そして久保山愛吉さんの死が人びとの意識を覚醒させたのだろうか。

水爆被ばくに触発された映画

『ゴジラ』(第一作)は同年二月三日に公開された。本多猪四郎監督がつくったこの映画の最初の場面を思い浮かべてほしい。一艘の乗組員がゴートとどろく雷、ものすごい閃光に遭遇し、そしてゴジラを目撃するのだ。福竜丸が遭遇したピカと同じように。ピカは映画の中でゴジラとなって描かれている。最初にゴジラの犠牲となり死と直面したのは誰だ?それは無線長だ。それは久保山さんを想像させるものだ。

ゴジラはこの社会で初めて核爆発を表現し、抗議をこめて人々に新しい目覚めと意識を与えられたのではないだろうか。私は伝えたい。巨大なトカゲらしき怪物が明らかにした意味を:そして福竜丸事件がもった歴史的、社会的、精神的インパクトを。この世界の、核爆発による結末が、現実にあることを、いま生きる人間と背中合わせにあることを。

